

# 神奈川県立厚木西高等学校

## 令和7年度 第3回学校運営協議会 議事概要

日時 令和8年3月12日(木)  
15:30~17:00  
場所 厚木西高校 会議室

### 1. 開会

#### ●会長挨拶

- ・東日本大震災から発生から15年、大事な思い出せる機会に立ち会ったと感じている。1年間の学校運営に関わるまとめの報告・評価をすることになる。

#### ●校長挨拶

- ・3月3日に本校卒業式を行った。228名の卒業生を送り出すことができたのは、地域の方のおかげだと思う。本日の学校運営協議会の意見を参考にして、次年度以降の新たな経営に携わっていきたい。

### 2. 報告・協議事項

- ・厚木西高等学校の学校経営について  
学校評価報告書実施結果(各グループより説明)

#### 【学習支援G】

- ・授業改善・主体的対話的な深い学びの勉強とICTの活用を行った。1人1台タブレット端末・電子黒板などを使って授業を進めながら授業改善等ができた。ハード面だけではなく、神奈川県教育委員会がライセンス料を払って生徒が生成AIを使える環境も整えている。次年度以降ソフト面も積極的に使えるように、校内研修等も深めていきたい。
- ・教育課程の改善では令和9年度入学生に向けて大幅に変えたい思いがあったが調整が難しく、年度末になってしまった。来年度以降しっかり引き継ぎ、実際に実施できるようにしていきたい。

#### 【生徒・活動支援G】

- ・今年度ケース会議の回数が昨年度よりも多く持てた。その結果、児相や支援にしっかりつながった。一方でそこにつながるまでの時間が少しかかってしまった。枠組みをしっかりと整備し、多くの先生方への声かけを勧めていきたい。
- ・今年度特別指導の件数が多くなった。服装頭髪等の日常的なところに加えて、喫煙・焚き火があった。新2年3年の生徒たちにホームルーム、講話・掲示物等で声かけをして、より添っていけるようにしたい。
- ・行事は西翔祭体育の部も文化の部も、生徒が頑張ってくれた。アンケートでも楽しく、主体的に取り組むことができた結果が出ている。前向きに取り組んでいる状況を引き続き生徒会本部・実行委員長とやり取りし、生徒の成長の場につなげていきたい。

#### 【キャリア支援G】

- ・生徒の一人ひとりがそれぞれの職業観を確立し、主体的な進路選択と進路実現ができるように目標を立てた。取り組みとして、昨年5年ぶりに近隣企業との連携を行った。1年生全員がメイテックに出向き、職業の話や高校時代の生活等の話を聞いた。
- ・夏休み期間中に3年生2名が保育園でのインターンシップ、10名が介護体験に参加した。これは今後も増やしていきたい。4月と8月に1・2年生は学習到達テスト、3年生は実力診断テストを実施、2月に1・2年生全員が実用英語検定を受験し、振り返りを行った。
- ・進路状況については例年同様、大学進学は指定校推薦・総合型選抜でほとんどの生徒が年内に決定した。一般受験の生徒が十数人いて、中には自分の志望したところに合格した生徒もいた。集計中だが6割が大学、2割が専門学校、就職が十数名の結果となった。
- ・インクルーシブ教育推進実践校の取り組みとして、1年生で職業訓練と見学を行い、2年生で職業体験学習、3年生は就業につながるような体験を行い、特別募集生徒もだいたい就職が決まっている。

### 【地域共生 G】

- 学校説明会を年間 3 回実施し、地域の中学生に本校の魅力を発信していく目標を立てた。夏休み中に数年ぶりに部活動体験も実施できた。説明会参加者の合計は 726 名となった。志願に結びつけられなかったところが残念だった。来年度に向け広報を強化していきたい。部活動体験について気温等の事情で中止せざるを得ない状況を心配することもあったので、安心して参加できる時期を考えていかなければいけない。
- 来年一番重点的にやっていくのは、ホームページの整理。見にくいところや情報が刷新できていないところがあるため、それを整理し、更新の回数を増やして、繰り返し本校のホームページを訪れてもらえるような作りをしていきたい。

### 【管理運営 G】

- 清掃委員で清掃点検を行い、結果をクラスへフィードバックした。ただしフィードバックしたものが活かされ、清掃に繋がったかは厳しかった。来年はもう少し数を増やし綺麗な学校作りということで進みたい。
- エコの日を中心にエコポスターを各クラスに貼った。省エネ、ゴミの分別の仕方について考えてもらった。ただエアコンの使用電気量について削減するのは難しかった。体育の時間にドアを開けたままにすることが見かけられた。こまめな節電をしていかなければいけない。
- 生徒保護者への配付物についてはペーパーレスということで、Google クラブルームで生徒に、保護者にはメールで送った。
- 防災関係では昨年度事前に学習してから訓練するといいいという話があったので、今年は事前に勉強してから行った。アンケート結果では 99.7 パーセントの生徒が災害に関する意識を高めることができていた。今年度初めて起震車に来てもらった。
- 今年度天井に生徒が穴を開けたことがあり、直すのに 17 万円かかった。その際損害賠償責任償制度を使い、保護者の負担なく修理することができた。PTA 単位で加入する制度のため、来年度も PTA で加入をお願いしたいと考えている。

## 3 意見交換

- 今年度の振り返り 来年度に向けて

【委員】学習支援 G で大幅な変更とあるが、具体的にどのような変更を大幅にするのか。

→これからの入学生に関して、3 年時に 6 単位の理系科目を必ずしも取らなくてもいいというものだった。社会で求められている人材は文系理系の隔てがない状態で色々な学問知識を持っている人材。一つの科目だけを週に 6 時間勉強するのは、違和感がある。自由選択の形ではなくても取れるようなカリキュラムにするのが大幅な変更の中心となる。

【委員】西高だけの問題ではなく、学校共通の問題だと思うが、教える先生がいない、人材が足りていないということが問題の本質にあると思う。

【委員】もう令和 8 年になるので、日程的に厳しい。おそらく受験生に説明しなければいけない。何月ぐらいになるのか。

→タイムスケジュールとしては、県に令和 9 年度の教育課程はこれでいくという事を報告する期限が、令和 8 年 5 月にある。原案をグループとして作っているが生徒の実態として、できるだけ指定校で行きたいという思いもある。色々なことを学んだ方がいいという教員の思いがある一方で、生徒は指定校でいけばいいからというような思いの不一致感がある。そのため教員の視点だけでカリキュラムを作ってしまうと、生徒に合わないものになってしまう。時間をかけて議論をしていかないと危ない教育課程になってしまう。それを想定して、令和 7 年度中からもっと早く議論を進めておけばということはある。5 月をまずは目指し、難しいのであれば令和 10 年の入学生から目指す。必ず令和 8 年の中で議論を進めて、より良い課程を作っていきたい。

【委員】グループの思いがあり、それが学校教育目標にうまく繋がっていくといい。子どもの声も聞きながら、グループとしてこういうことも育てたいということを検証しながら、それを方針として 9 年の入学者に説明できるところまでいけば説明すればいい

いし、できなければ時間をかけてやっていくこともできる。

【委員】生徒がただ単に大学に行ければいいと思っているのか、もっと自分が好きなことを勉強したいと思って学んでいるのかわからなかった。どう感じているか。

→今年3年を担当して卒業生を出したが、しっかりと見通しができている生徒はかなり少ない印象を受けている。大学に行くために逆算をして、最低限この成績は取っておかないといけない等、そういう考えになってしまうのは実態として感じている。教員がもっと生徒にアプローチをかけながらやっていくべきところという感じはある。

【委員】中学校でも同じ部分がある。高校に入るだけでいいのか、勉強の面白さがどうしたら伝わるのか話をしている。共通の悩みだ。

【委員】他校の学校運営協議会もやっていて、同じような内容が出た。一般入試を避ける傾向がある。それは多分今の世代共通なのではと思う。推薦に流れてしまうというのは普通の流れというものはある。

【委員】保護者として高校選びでどういうところを選ぼうかと思った時に、西高は指定校が多く、大きなメリットだった。それを目当てに入る人は多いと思う。西高がこれからどんなことをコンセプトに打ち出していきたいのか、固めていかないといけない。例えば息子の場合、選択授業で保育の授業があり、それを目当てに入学した。学校のカリキュラムの中で子どもたちが楽しみに思えるようなものがあればいい。→西高は他校ではあまり開講してないような授業が開講できたりする特徴がある。普通科の高校に通いながら、一部専門的な授業を受けたいという思いを持つ生徒もいると思う。厚木西高校は生徒を多く募集をかけたい状況で、今のカリキュラムの中にもPRできるようなものがあり、それで生徒が行きたいと思ってくれるのであれば、まずはそのPRできるものを広報と連携しながら中学生にPRしていきたい。何か特徴のあるようなカリキュラムを教員と協力しながらやっていくところのヒントになった。

【委員】メニューを特化し、先生を配置して授業を展開するのは難しい。保育や社会福祉に興味があるなら、時間を割いてもらえれば見学はいつでも受け付けられる。授業のカリキュラムでやるというよりは限定的な時間の中でのレクリエーションみたいな感じで可能だ。遠慮なく言ってほしい。

【委員】高校の色々な教科に探究という言葉がくっついている。今までのようなテスト何点取るみたいなものなのか、それとも探究だから何かやるというようなものか。→社会科の探究だと教科書の巻末に探究のページが記載されている。地理の探究の中では、自分たちなりの答えを導き出してそれを発表してみようというような時間を多く取るようにした。探究の時間は生徒が社会出ていく中で重要な力になってくるので、生徒を主体で取り組ませる授業をやっていかないといけないと思う。

【委員】先生が話したようなことを体験させるのは大変か。

→はい。

【委員】今年度は行事を主体的に企画運営をして連帯感を育むという1年間の目標があったと思う。一部の生徒は主体的に頑張っていて企画運営していきこうと力を入れている人たちがいたと思うが、その一方で計画のなさもあったのではないかと。それで楽しくやっている一部の生徒は楽しく突っ走ると思うが、気持ちがついていっている子とをいっていない子とかまちまちになる。会話を重ねて計画的にできれば学びになる。主体的にという考え方は素晴らしかった。

→一部とそれ以外のギャップは以前より増して温度差が大きくなってきた。そこに關して、やりとりが足りてなかったという思いが大いにある。次年度以降つないでいきたいと思う。

【委員】焚火はどういう経緯か。

→判明したのは10月小町緑地の砂場で、本校生徒が焚火をしていたという連絡があった。焚き火をしている場所で喫煙をしていたということも出てきた。指導も行った。

- 【委員】 中心的な人がいて、その周りにメンバーがいたのか。  
→いたようである。他校の生徒も来ていた。3年生だけだったのが下級生もいたとの話があった。
- 【委員】 具体的な指導はどういったことをするのか。  
→喫煙に関しては、登校別室指導。それが繰り返し行われていくと累積で、日数が増える。4回目からは無期別室指導になる。焚き火もバイクも同じ。
- 【委員】 特別募集で入ってきた子たちを社会に繋げていくのは大事なところだと思う。つながりづらい、難しいと感じることはあるのか。  
→1, 2, 3年生で、それぞれ定員が21名。年によってはそれより少ない人数が入学してきている。職業と生活の授業を週2単位で2時間ある。特別支援学校と違うのは、本校では職業はその授業だけで他の授業は一般の生徒と同じ授業に行き同じ試験を受けている。そういうところがもう少しなんとかできないのかというところになる。ただ、1年生は夏休みの初めに職業訓練機関を見学して、業者と立ち会って、その様子を見に行き、2年生は職業体験をやり、実際にできることをやっていき、3年生は就職に続くように自分で行きたいところを探して、2, 3週間実際に体験して自分にあえば、そこに就職することになる。そのような形で支援をしている。それと一人一人によって取り組みや準備が違い、熱心にやる生徒は企業側の評価が高い。あとは就職支援機関があり、卒業した後そこで専門的な事業の訓練をして、そこから就職する生徒も毎年数人いる。最近では近隣の会社企業でも障がい者雇用を受け入れていて、求人票等が来ている。職業体験して就職に結びつけていければと思う。
- 【委員】 手厚くやっているのがよくわかった。インクルーシブという考え方が、一般の生徒にどのくらい浸透しているのか。  
→クラスに2名か3名ぐらい入っている。その中で交流できる生徒は一般の生徒と交流する。特別募集で入ってきた生徒同士で固まってしまう生徒もいる。お互いにコミュニケーションが取れば、枠を外していけるなという思いはある。特に女子の方が比較的馴染みやすく交流している。  
→インクルーシブの取り組みは県内18校あり、足並み揃えてやっている。18校の中で特別募集の生徒だけで固めている学校はない。神奈川県は「共に生きる」その実現に向けて取り組んでいる。また悩みも同じようなところがあり、インクルーシブ校の校長の集まりに出ると特別募集の生徒だけで固まってしまう傾向があるとか、「職業と生活」という特別支援の子だけが取る授業があるが、それを取りたがらないケースもある。そういう情報を共有しながら日々取り組んでいる。
- 【委員】 知的能力だけではない問題がある。コミュニケーションが上手にできる人もいれば、意思疎通が苦手な生徒もいると思う。インクルーシブというその全体の中で包括的にやる大切さと、個別的な療育がバランスよくできるといい。非常に大変だと思う。理想ではいいことだが、色々な子がいると思う。そういった生徒と一般生徒が同じ空間で過ごす時間があるのはいいと感じている。
- 【委員】 ホームページを整理して魅力的にすることはいいと思う。厚木市の小中学校は来年度からホームページの写真は個人が特定できないような写真に限ることになる。だが地域の方々には子供の表情がわかるようなホームページを楽しみにしている。そういった人もいたりする。  
魅力的なホームページというと、どうしても表情とかそういったものも出てくるとは思うが、その辺はどういうふうに制限されたりするのか。  
→その点は心配している。なるべく個人が特定されないような内容で、例えば部長さんの言葉や感想を紹介していくような形にして、恐れているような被害が起こらないようにしていかなければいけない。  
→前任の話で、ある幼稚園のホームページに幼稚園の子が水遊びをしている写真を載せていたが、県民の方からこんな危ない写真を載せてはいけないという忠告もらったことがある。県民の中には、そういうところも危険だという思いはあ

る。それはその通りかなと感じる。

【委員】厚木市も教育委員会が言ってきているが、市はそこまで考えてない。ロックをかけて限られた人にしか見せないようにするとか、色々な方法があり得る。

【委員】学校説明会は、厚愛地区厚木愛甲地区の中学校の校長から文化祭の日と重なり行けなかった、平日で授業を受けさせるかどうしようかという話を聞いた。  
→連絡ありがとうございます。

【委員】動きのあるホームページ、その施設の中でどんな活動が行われているのかを更新頻度をこまめにしていく中で効果がある。その中で顔のせができないのは非常に残念かなと思う。個人情報課題があるので、施設では顔見せがいいという承諾を全部ペーパーで得ている。利用者の家族もしくは後見人から承諾を得ただけ顔のせで掲載している形を取っている。

→ホームページや SNS を使ってかなりの学校が学校紹介を行っている。線引きが難しいが、中学生にとって、それらの媒体を通して学校を知る機会が多いので、発信の仕方を考えて対応していかななくてはいけない。

【委員】壊れた天井は生徒が弁償するのか。

→はい。重たいボールが届いて穴があいた。

→部活動のトレーニング中に天井に穴があいた。

【委員】17万円するのか。

→そういう話でした。

【委員】故意でなければ、学校のお金で直していいか考える。

→故意でやった場合には特別指導になる。

→特別指導にもなり、弁償もする。

【委員】電気の消費量について、ポスターで PR する仕方は消灯についてもっと詳細にした認識があると行動を起こしてくれるのではないか。教室のクーラーの問題もポスターをもう少し工夫して考えていかないといけない。

通学の問題でヘルメットをかぶる等が今まではあったが、今年の4月から法律が変わり、色々新しいルールが出てきている。通学は自転車が多いので、その辺を強化できるような方法を考えていただきたい。

→令和5年度にヘルメットインフルエンサーというのが、生徒会の生徒を中心に活動していた。それが一カ年限りで続いてない。生徒への周知はやらないといけない。法律の変更は新2、3年生向けに資料がまだ来てないので、新1年生に配った資料を Google クラブルームで配信をするなどから始めていこうかと考えている。

→消灯の件は1年生が一番良く消えている。エコ教育が1年生にしか響いていない。学校としてエコの日を設けているが、それが弱いかなと思う。もう一步踏み込んだ PR ができるようにしたい。

【委員】クラブ活動の時に使っていると思うが、そういう認識をクラブ活動の人たちが持つといい。

【委員】厚木市の交通防犯関係の会議の際に警察より各学校で毎年講習会を順番に行っていると聞いた。手を挙げればその回数が増えるのではないか。ヘルメットインフルエンサーの写真があったが、生徒たちがかっこいいと思って良しとするような風潮があった方がいい。西高の前の坂道を車で降りる際、生徒が昔は逆走していたが今はない。いいことだ。

【委員】今年度神奈川県の PTA の発表として、本校 PTA の交通安全委員会が発表した。その時に生徒が通学路を自転車でどういう風に通学しているのか、事故の件数や自転車を整備しているのかを、生徒にアンケートを取った。その辺の内容を周知してもらえれば嬉しい。

→発表の動画を周知する。

【委員】発表の動画をぜひ見てほしい。

→非常に手をかけた内容で、この地区の PTA の方々も褒めていた。簡単にはできない内容を作った。活用できればと思う。

#### 4 その他

- 【委員】祭り際には西高からグループで参加してもらい、演奏をしたり天文の話をした。社会の探究の時間で、地元に来て発表してもらった。特に去年はいい方向を見せてもらった。続けられるものなら続けていきたい。
- 【委員】これからも地域と連動させて、両方がWinWinの関係になるように持っていければ一番いい。
- 【委員】インクルーシブの方でこれからも協力できたらいいと思う。
- 【委員】学校の特色を前面に出していかないといけない。探究の授業は学校の特色が出やすい。そういったものをアピールすることで、西高の良さを伝えることもできる。
- 【委員】学校の先生の負担感は大きいと思う。学校の先生のICT化を進めていく中で、負担感が軽減して余裕を持った気持ちで生徒に接することができるといい。
- 【委員】本校も探究的な総合的な学習の時間を中心にやろうということで、方針を色々変えたりしている。そういったところでうまく連携ができていくといい。
- 【委員】良い関係でいられればと思う。
- 【委員】保護者の目線からの意見が聞けたり、地域の企業の方と話ができる機会が貴重だった。連携して教育しあえるのが嬉しいと思う。次の会長候補にも引き継いでいきたい。
- 【委員】西高が魅力的なところはあるが、上手に情報共有や宣伝ができないのか、あるいは当たり前のことと受け止めてしまっている部分がある。持っている魅力はたくさんあるので、そこを集めてアピールしていけばいい。
- 【校長】今日の貴重な意見は学校運営に反映させられるよう尽力していきたい。

#### 5 閉会

17:00 終了

#### 参加者

神奈川工科大学学生支援本部学生サポート室研究主幹 鈴木正一  
厚木西高等学校PTA会長 笠原絵里  
社会福祉法人愛の森 愛の森学園施設長 遠藤岳洋  
日産自動車R&D 総務ファシリティマネジメント部主任 大木俊雄  
厚木市立森の里中学校校長 松田拓也  
厚木市立森の里小学校校長 伊積秀人  
株式会社アマダブランテック総括リーダー 大塚敏男  
森の里地区地域福祉委員会委員長 永嶋信一  
森の里自治会連絡協議会会長 原田充治  
校長 林信仁  
副校長 湯山秀史  
教頭 横溝康弘  
学校支援Gリーダー 大林耕平  
キャリア支援Gリーダー 中島功  
生徒・活動支援Gリーダー 阿保卓寿  
管理運営Gリーダー 小島雅彦  
地域連携・共生推進Gリーダー 早川健史  
記録 陶山 恵